様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	臨床心理士養成コース ／小倉　正義

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

昨年度着任し，発達臨床心理学の専門性の観点から必要な知識を伝え，それにくわえて出来る限り具体的な事例を示しながら，実践力を高めるような授業を展開してきた。ただ，大人数の授業では，学生一人ひとりが考えて取り組めるような課題に関しては不十分な部分があったと考えられる。今年度は大人数の授業であっても，一人ひとりの学生が考えて取り組むことができるような授業の工夫を行っていきたいと考えている。そうすることで，少人数の授業を行う際にも，さらに一歩進んだ理解と実践力の養成が期待できる。新しいコースである学校教育実践コースの担当でもあるので，コースのカリキュラムをより充実させるための取り組みをしていきたい。

2．点検・評価

年間を通して，発達臨床心理学の専門家の観点から学部・大学院教育を行ってきた。中間報告にも記述したが，大講義においても，演習においても，目的を明確化し，自ら考えて取り組めることを意識して授業を展開した。学校教育実践コースのカリキュラムの充実に関しては，今年度は新しいコースの授業として初等中等教育実践基礎演習を実施したが，様々な先生方のお力で一定の成果は挙げることができたと考えられる。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①学部の授業では，大人数の授業であっても学生が主体的に授業に参加できるよう，体験的なワークや事例検討などを取り入れる。また，卒論（3年生・4年生）の指導では，卒論作成に向けて主体的に取り組むことができるように指導していきたい。さらに，新コースのカリキュラムの充実に貢献する。
②大学院では，講義・演習やケースのスーパービジョン等を通して，臨床心理士の基礎的な力を養成し，臨床心理士の資格試験に必要な知識を伝える。またゼミ生（M1・M2）には，修論の指導を通して，研究者的な視点の養成を行う。また，昨年に引き続き，発達障害に関する勉強会を行う。
③学生の進路や研究，大学生活に関する悩みなどに応えながら，職業的な意識も育てることができるように指導していきたい。

２．点検・評価

①繰り返しになるが，大講義であっても学生たちが主体的に取り組めるような内容を工夫した。また卒業論文作成にあったっても，自分の課題を発見し，それを検討する力を身につけることができるように集団の指導，個別の指導を使い分け，きめ細やかな指導を行った。
②コースを越えての大講義に関しては中間報告の通りである。臨床心理士養成コースの学生に関しても，より実践的な力を身につけることができるように，授業内外で指導をしてきた。修士論文の作成に関しても，論文の完成だけでなくより実践性の高い研究をする力を養成できるように指導した。
③ゼミの学生27名を中心に，進路や研究・大学生活に関する悩みなどに応えてきた。また授業やゼミ，雑談を通して，職業的な意識を育むことを目指してきた。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

①学校と家庭の連携に関する研究，発達障害児/者への支援に関する研究，強迫性障害に関する研究，中学生のインターネット使用とメンタルヘルスに関する研究について国内外の学会で発表を行い，そのうちいくつかを論文の形にまとめ，学会誌（A論文）に投稿する。
②昨年度に引き続き，学内外の研究助成の公募に積極的に申請し，特に学外資金の調達に重点を置く。
③国内外の他大学の研究者と積極的に共同研究を行う。
④危機介入・緊急支援の在り方について，実践と研究に取り組む。

２．点検・評価

①国外ではESCAP2011（inヘルシンキ）で中学生のインターネット使用とメンタルヘルスに関する研究を，国内では日本心理臨床学会（ポスター発表）・日本自閉症スペクトラム学会（自主シンポジウム）で発達障害児へのSSTに関する研究を筆頭発表者として発表した。他にもいくつかの研究を連名発表者として発表した。またいじめに関する論文がInternational Journal of Adolescent Medicine and Healthに掲載され，共同研究でも中学生の母親の養育態度に関する論文が東海心理学研究に掲載された。また，共同研究で紀要等いくつかの論文が掲載され，専門書の分担執筆も行った。
②科学研究費助成事業の若手B（新規）の主任研究者として，また基盤B（新規）・基盤C（継続）の分担研究者として申請した。
③フィンランドの研究者と共同研究をすすめるとともに，国内では科研基盤Cでの共同研究や名古屋大学発達心理精神科学教育研究センターとの共同研究などをすすめている。
④東日本大震災に関わる心理支援（主に福島）を行い，徳島県臨床心理士会においては東日本心理支援センターの窓口を担当してきた。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

①大学の運営組織や運営目的をしっかりと意識し，教育実践に取り組む
②新コースである学校教育実践コースのカリキュラムや体制の充実に積極的に取り組む
③教員免許状更新講習実施委員会の委員としての責務を果たす

２．点検・評価

①初年度と比較して，大学の運営組織や運営目的を意識して取り組むことができたと考えている
②臨床心理士養成コースの教員として，また学校教育実践コースの教員として，ある一定の役割を果たした。
③教員免許状更新講習実施委員会の委員としての責務を果たした。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

①附属学校におけるスクールカウンセリングなどで，特に附属学校の教育相談や特別支援研修の部門での連携を図りたい（附属学校）。
②徳島県教育委員会や徳島市教育委員会を中心に学校教育分野での連携を行い，子どもたちやその保護者への支援を行いたい（社会貢献）
③発達障害の子どもたちとその保護者の方々への支援に関して，様々な機関と連携しながらシステムの構築に貢献する（社会貢献）
④その他，研究者や大学教員として，社会に貢献できることを常に考え実践する（社会貢献）

2．点検・評価

①附属学校におくえるスクールカウンセリングの業務を予定通り推敲した（附属学校）
②徳島県教育委員会・徳島市教育委員会の学校教育分野での連携・協力を積極的に行い，子どもたちやその保護者への支援を行ってきた。
③発達障害の子どもたちとその保護者への支援に関して，県内では徳島県発達障害者支援センターやいくつかの親の会と連携しながら，システムの構築に貢献してきた。また県外では，日本発達障害ネットワークの事業や各県のペアレントメンター事業，愛知県自閉症協会が行う事業に協力してきた。
④自分でできる範囲ではあるが，様々な形で社会貢献を行ってきたつもりである。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

大学開放事業や教育支援講師・アドバイザー事業・教員免許状更新講習など，大学の事業を活かして，自らの専門性において地域等に貢献してきた。